

細川ガラシャ婦人隠棲地

この山の頂には、歴史上の人物である細川ガラシャ（1563 年～1600 年）の隠れ家だった場所とあったといわれています。ガラシャの死後 1 世紀後に記録された戦記と近くの味土野の町のオーラルヒストリーにより、この場所は細川ガラシャが 2 年間幽閉された場所であったとされているのです。

細川ガラシャ（明智玉）は、将軍の明智光秀（1528 年～1582 年）の娘として生まれました。ガラシャは 16 歳で丹後国の支配していた細川忠興（1563 年～1646 年）と結婚しました。そして 1582 年、ガラシャの父である光秀は本能寺の変で、最初に天下統一をした織田信長（1534 年～1582 年）を裏切ったのです。その後ガラシャは命が狙われたために子供たちから引き離され、幽閉されることになりました。

やがてガラシャは大阪に送られ、大阪でキリスト教に改宗し、ガラシャという洗礼名を与えられました。そして 1600 年に大阪が夫の敵である石田三成に攻撃された時、武士のしきたりによって敵に人質に取られるよりは自ら死を選ぶこととなりました。

この山頂には、二段に盛り上がった跡地を除いて、ガラシャの時代の遺物はほとんどありません。1936 年には、ガラシャを弔うために石碑が上段に建てられました。また襲撃された時にガラシャを守るために警備員が配置されたと歴史家が考えている、別の跡地もあります。